

イチゴ育苗期間中における天敵の導入によるハダニ類防除効果の検討

茨城県立農業大学校園芸部

園芸学科 施設野菜コース 2年 畑澤 雅

1 みどり戦略との関係性

- ・イノベーション等による持続的生産体制の構築
—高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
化学農薬の低減
化学農薬のみに依存しない次世代総合的病害虫管理の実証

2 目的・背景

- ・前作のイチゴの栽培では本圃で天敵を導入したものの、ハダニ類の発生が多く見られ、それに伴い薬剤散布の回数が増えて他の作業に割く時間が少なくなった。
- ・天敵導入時のハダニ類の数が多く、効果が低かったと考えられるため、今回はイチゴの育苗中に天敵を導入した際のハダニ類防除効果を検討する。

3 取組内容

①試験区構成

- ・1区：親株床に天敵導入（5/30放飼）
- ・2区：ランナーカット後天敵導入（8/5放飼）
※天敵はスパイカルプラス（ミヤコカブリダニ）を
60パック/100株設置

②調査項目

- ・天敵・病害虫発生調査：ハダニ寄生葉率、
天敵頭数
- ・経営調査：粗収益、経営費、労働時間、所得

③栽培体系

3月：親株定植 7月22日：ランナーカット後
12月：収穫開始予定 9月24～26日：定植



【写真 スパイカルプラス設置】

4 結果

- ・1区、2区ともに天敵導入直後はハダニの発生を抑えたが、その後、ハダニが多発した。
- ・1区、2区ともに、天敵導入直後は天敵が見られたが、その後は天敵を確認することができなかった。

表 ハダニ寄生葉率、天敵数の推移

調査日	1区		2区	
	ハダニ寄生葉率 (%)	天敵頭数 (頭/50葉)	ハダニ寄生葉率 (%)	天敵頭数 (頭/50葉)
5月26日	0			0
6月13日	0	1	48	
6月27日	1	0	34	
7月14日	16	0	0	
8月8日	92	0	0	11
8月22日	12	0	0	0
9月5日	6	0	32	0
10月6日	0	0	30	0

5 考察・まとめ

- ・育苗期間中は花がなく、花粉がないためかミヤコカブリダニが増えず、ハダニの発生を抑えることができなかった。
- ・今回は価格が高いため使用しなかったが、今後バンカーシートの利用などを検討したい。